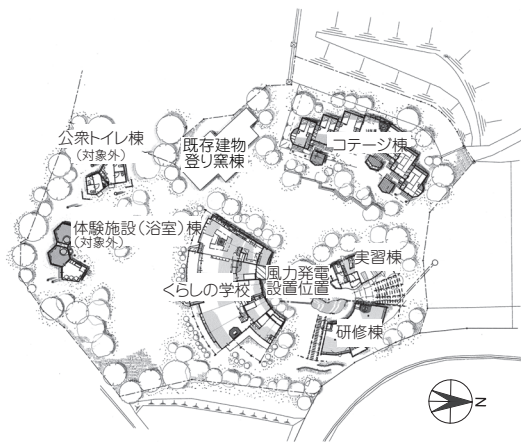


くらしの学校「だいだらぼっち」

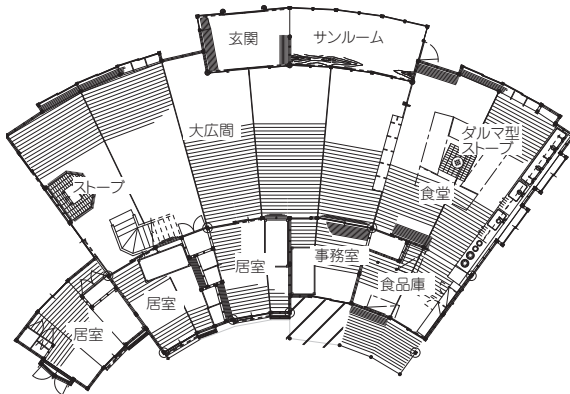


食堂（ダルマ・ストーブを囲みながら、大勢で食事をとる家族的食堂）

くらしの学校棟外観



配置図



くらしの学校棟 1階平面図

所在地	: 長野県下伊那郡泰阜村 6218-22
敷地面積	: 3,638.50 m ²
建築面積	: (コテージ棟) 117.90 m ² (くらしの学校棟) 298.60 m ² (実習棟) 42.20 m ² (研修棟) 129.00 m ²
延床面積	: (コテージ棟) 166.50 m ² (くらしの学校棟) 303.80 m ² (実習棟) 42.20 m ² (研修棟) 110.90 m ²
構造・階数	: (コテージ棟) W造 地上1階一部2階 (くらしの学校棟・研修棟) W造 地上2階 (実習棟) W造 地上1階
事業者	: 泰阜村
設計者	: 環境プランニング
施工者	: (株)ヤマウラ
竣工年月	: 平成15年4月～16年3月にかけて順次竣工
総事業費	: 103.3百万円

本施設は、小学校3年生から中学校3年生を対象とした南信州の山村への長期山村留学生を受入れるために計画された学校である。泰阜村が20年にわたり活動してきたNPO法人が実施している山村留学の意義、精神性を理解し、厳しい財政事情の中、支援を継続してきたものであり、現在では都会の子ども達に対する環境教育の先進例となっている。

計画に当たり、NPO法人による企画・運営方針立案と設計・施工とが上手く機能するよう、自治体は財源確保のみに努力し、あとは運営するNPO法人、専門家の能力に期待するという特殊な発注手法を試みており、自治体とNPO法人の新しい関係性、新しい型の公共建築のあり方が見いだされている。

教育ソフトを補完するパワーある建物をめざし、子ども達の強い愛着心、精神性を引き継ぐことに留意し、企画段階の設計者・管理者・利用者によるワークショップで、それぞれの理念の調整や、子ども達の斬新なアイデアを導き出すなどの手法が取られ、設計者はそれらを上手くみ取り、機能はもとより、その形態に至るまでユニークな施設に仕上げている。

現在は、卒業生の里帰りも多く、留学希望者を受入れられないほどの状況ともなっており、過疎化の進む山村の中で、本施設の果たしている役割はきわめて大きい。